

## 大学発ベンチャーの経験事例の紹介

平成16年11月18日(木)、金沢大学インキュベーション施設にて、(株)新日本科学代表取締役社長永田良一氏を迎えて、「大学発バイオベンチャーのトランスレーショナル・リサーチについての経験事例紹介」と題した講演会が医学系研究科、共同研究センターの共催により行われました。

医学系研究科の教授、助手、大学院生、学生といったプロフェッショナル37名の参加による格調の高いセミナーとなりました。

## 金沢大学の新技术説明会の開催

平成17年4月5日(火)、金沢大学インキュベーション施設にて、北國銀行、(有)金沢大学ティ・エル・オー、金沢大学共同研究センターの主催により「金沢大学の新技术説明会」を開催しました。

同説明会では、(有)金沢大学ティ・エル・オー平野武嗣氏から「金沢大学の産学連携と技術移転」について講演の後、自然科学研究科高橋憲司助教授より「無水糖の安価な製造方法」、同浅川直紀助教授より「製品の個性差に対応できる自動面取り装置」、同尾田十八教授より「キースイッチ」等の発表が行われました。県内企業より約40名の参加者の下、熱心な討論が行われました。

## MEX金沢2005へ出展

平成17年5月19日(木)～21日(土)の3日間、石川県産業展示館にてMEX金沢2005(第43回機械工業見本市)が開催され、本学からは理学部、医学部、工学部からの計6研究室、共同研究センター、(有)金沢大学ティ・エル・オーが合同で出展しました。期間中約6万4千人の来場者があり、本学の研究成果の実演紹介等に対して来場者から多くの質問が寄せられました。

## センター新任スタッフの紹介

昨年7月に、文部科学省派遣の産学官連携チーフ・コーディネーターとしての着任のご挨拶をしたばかりですが、本年4月より専任教員として採用されました。



渡辺良成 助教授

た。学内外連携の接点としてサービス業務を念頭に心機一転勤務しております。これまで国内外での「学(バイオ分野)」「産(創薬研究)」にわたる勤務とコーディネーターの経験を生かしつつも医薬・バイオ分野にとどまらず、学内外の研究活動を活性化させる酵素、触媒の役割を果たしたいと思います。よろしくお願いいたします。



長江英夫  
産学官連携チーフ・  
コーディネーター

企業の研究所に36年間勤め、平成17年4月に就任しました。研究所では医薬品研究を担当し、研究の進展に伴い、産学共同研究、知財管理、プラント建設、品質管理と保証、米国FDA査察への対応、経営など多岐にわたる業務を経験した獣医師です。これらの経験を活かして大学の活性化と地域社会の振興に努めます。何卒よろしくお願いいたします。



奥野信男  
地域連携アドバイザー

営業現職としてのネットワークと40年余の経験を生かし、金沢大学の営業担当として、①地域企業からのニーズ収集②学内でのシーズ収集、③公的資金情報の収集を基に、出口を見据えたテーマによる産学官共同研究グループ構築と、成果の流通までお手伝いをしたいと思います。クイックレスポンスをモットーに頑張りますので宜しくお願いします。

金沢大学共同研究センター  
NEWS LETTER 第9号 June.2005  
発行 国立大学法人 金沢大学共同研究センター  
金沢大学共同研究センター協力会  
住所 〒920-1192 金沢市角間町  
TEL 076-264-6111 FAX 076-234-4019  
E-mail ccr@ad.kanazawa-u.ac.jp  
(\*E-mailアドレスが変更となりました)  
http://www.ccr.kanazawa-u.ac.jp/

# NEWS LETTER

金沢大学共同研究センター

第9号

## 法人化二年目にあたったの 産学官連携活動の取組みについて

共同研究センター長 村上清史

共同研究や産学官連携活動、さらに共同研究センターの諸活動にあたって、多分のご協力をいただきありがとうございます。法人化二年目にあたって、昨年度からの新たな取組みを始めているもの、あるいは計画中の企画があります。

### (1)開発研究促進助成金制度

これは、アメリカやイギリスでギャップファンドあるいはシーズファンドと呼ばれ、効果を上げている枠組みを国立大学法人に導入するものです。国立大学法人の枠組みで、企業等からは寄附金としてご協力いただき、大学も独自に基金に財源を投入し、助成金制度(基金)を運用します。目的は、大学発の成果を実用化の出口により近いものとするために、「基金」を運用し卵を雛の段階にして社会に提供することです。技術移転などで成果を収めれば、「雛の恩返し」をする仕掛けとなっています。今年度から制度を活用した取組みが始まり、運用や効果については、社会に公表します。企業や同窓生などの方々からの一層のご協力をお願い申し上げます。問い合わせは、産学連携課までご連絡下さい。

### (2)新たな産学官連携とセンター協力会活動の充実に向けて

皆様のご努力で様々な企業と研究者との個別の共同研究が進んでおり、共同研究件数が年間200件に到達しようとしております。金沢大学では、最近、より組織的な連携による共同開発研究を目指して幾つかの企業と連携協議を進めております。また1大学

にとどまらず複数の大学と複数の企業との間で、新しい連携活動の試みも生まれようとしております。

共同研究センター協力会の活動がより充実したものとなるため、会員企業からの企業紹介とニーズについての説明会の開催と、会員企業のための研究室見学のパログラムを企画中です。

### (3)産学官地域アドバイザー制度

地域のニーズ、シーズマッチングに積極的な方々(金融、ディーラー等)に、金沢大学の産学官連携の取組みにご協力をお願いする制度です。参加する方々には、守秘義務誓約をお願いして、金沢大学の研究開発のシーズを理解していただき、ニーズ、シーズマッチングを一層強化したいと願っております。

### (4)間接経費制度

金沢大学では、公的資金以外の獲得した研究費(受託研究、共同研究、奨学寄附金)について、一律5%の間接経費制度を導入いたしました。寄附金については、附属学校における教育助成や個人からの寄附金などの適用除外事項も設けております。この制度による財源は、主として産学官連携活動の経費に活用することを目的としております。長期的には、大学発の知的成果を基盤とした社会貢献と地域産業の活性化に、わけても知的財産の確保等に重要な役割を果たすものです。受託研究や共同研究の申込みにあたっては間接経費制度が導入されていることについて、ご理解ご協力をお願いしているところであります。

金沢大学の産学官連携の諸活動は、まだまだ立ち遅れ、企業の方々からも研究者からも、多くのご不満やご意見があることと思います。産学官連携活動関係者は一層の努力を重ねたいと願っておりますので、皆様からの率直なご要望、ご提案、ご批判をよりしくお願い申し上げます。



## 平成16年度共同研究実施状況について(平成16年7月16日～平成17年3月31日)

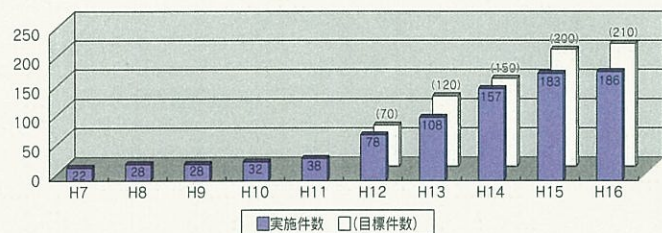
金沢大学では平成12年度以降、共同研究の実施件数が飛躍的に増加してきましたが、平成15年度はその伸びも少なくなり、平成16年度は目標を210件と押えたにもかかわらず実績は186件とほとんど横ばいとなりました。

国立大学の法人化を迎えての知財の取り扱い方法

の変更やそれに伴う契約書の変更、契約支援等の事務作業の複雑さと言った逆風もあるにしても、今後は受託研究を含めた総合的な施策が必要となってきたようです。

(7月15日までの96件については「NEWS LETTER第7号」に掲載)

「共同研究実施の推移」



## 共同研究テーマ

契約件数90件

## 文学部

学生が参加するまちづくり活動の課題について(大学、地域、行政の関わりのある方)の研究

## 教育学部

児童・生徒の健康に関する実態調査及び健康づくりのための取り組み内容の研究

## 医学系研究科

代謝疾患における発現遺伝子解析

肝疾患患者におけるプロテオゲノム血中動態の臨床的検討

Genotype 1bかつ高ウイルス量のC型慢性肝炎治療におけるウイルス減量療法の有用性検討(その2)

食品成分摂取による飲酒時の代謝変化に関する研究

細胞外マトリックス合成抑制剤の有効性評価

高感度フローサイトメトリーを用いた微小PNH型血球検出法の標準化

phosphatidyl serine(PS)指向性ペプチドの性状解析と応用

再燃前立腺癌モデルに対するエストラムスチンとビスホスホネートの併用療法の検討

治療における画像中読影システムの運用と評価に関する研究

ステントグラフトの基礎的研究

フラットパネルX線ディテクターを用いた新しい胸部動態・各種関節動態画像診断に関する研究

RAGEの病態における役割解析

ヒトUDP-グルクロン酸抱合酵素発現系の基質特異性に関する研究

トランスポート(P-糖タンパク)に関する共同研究

健康食品と脳機能との関連に関する研究

新しい腫瘍自家骨凍結装置の開発

エリスロポエチンによる神経保護作用の検討

免疫抑制剤による発現遺伝子の変化と解析(動物実験)

腫瘍融解ウイルスの婦人科癌における研究

大腸癌症例の核酸代謝酵素mRNA発現、DNAメチル化に関する母集団調査

## 医学部保健学科

療養病床医学部附属病院におけるリハビリテーションの評価・技術開発

睡眠時の非侵襲生体計測に関する研究

乳児期早期におけるB.breve投与と食物アレルギー発症との関連

排便検知に関する研究

## 医学部附属病院

T.P.N.処方実態調査

劇症型抗リン脂質抗体症候群(APS)に対する血漿吸着器セレソープを用いた免疫吸着法の開発

消化器癌症例の核酸代謝酵素発現に関する母集団調査

消化器癌症例の核酸代謝酵素発現に関する母集団調査

エリスロポエチン阻害物質の検出とその医学的生物学意義

## 自然科学研究科(理学部)

香料品応用を目指したバイオリソース(ウルシラッカーゼとビリルビンオキシダーゼ等の酸化酵素)の探索に関する研究

グリッドシステムの研究

ストリーミング技術の研究

ダイオキシン除去に関する基礎研究

オゾン及びイオンによる消臭効果

アンチモン代替化合物の探索

## 自然科学研究科(薬学部)

次世代型農薬の開発研究

担子菌Phellinus linteusの抗腫瘍活性成分について

落花生種子成分の造血機能に関する研究

食品の遺伝子データベース構築のためのプロトコルの設定に関する調査

機能性食品類の乾燥法による有用性の変化の解析

ハトムギ全草の機能性成分を利用した機能性食品の開発に関する技術調査

サルノコシカケの薬物動態特性の解明

薬物の体内動態制御に関する研究

揮発成分評価技術の共同研究

緑茶成分の機能性に関する研究

止瀉薬成分の脳機能に対する影響

電解水素飽和水の骨組織への影響

## 自然科学研究科(工学部)

高速相シフト法を用いる微細形状検査装置の開発

CBN・超硬工具による旋削、エンドミル、およびドリル加工に関する研究

風力発電用油圧ユニットの開発

微量水蒸気共存下における有機系ガスのイオン化による静電分離技術の研究

橋梁交通振動の橋脚基礎部動吸振器制振工法の開発研究

金沢市歴史的用水調査

雪氷路面の凍結防止対策について

フライアッシュ利用によるアルカリシリカ反応抑制対策に関する研究

土木、建築分野における環境問題を重視した繊維新商品開発事業

医療器具のEMC対策及びシールド特性の評価(調査研究)

高速GPS信号サーチに関する研究

トルクサーボ系の制御性能向上に関する研究

F.M式急速転荷試験の解析法の開発

衛星画像を用いた森林管理システムに関する研究

複数衛星受信アンテナ(ルネQ)の耐環境性

レーザアブレーション法による高誘電体薄膜/電極薄膜の作製と評価

ポリイミド製膜プロセスにおける分子配向挙動の解析

キャストイング解析技術の開発

窒化物系半導体レーザの雑音低減に関する研究

均一押し出し技術の研究

スキーターンの動作とスキー板への作用力に関する測定

炭素繊維担体とマイクロバブルを用いた嫌気好気生物ろ過装置

柱状構造物に生じる空力不安定振動の制振対策に関する研究

新規吸着剤探索と新規流路構成適用による低温熱駆動小型デシカント除湿空調機の開発

骨粗鬆症患者における脊椎圧迫骨折リスクの力学的評価

自動車事故における歩行者骨折解析のための腰部力学モデルの開発

骨折の治療を促進する創外固定機器の開発

宇宙大型構造物の展開構造及び組立に関する研究

外洋に面した海岸構造物周辺の波浪解析に関する研究

「札幌ITカレッジ」の創成(知的創造による地域産業官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」)

ゴムの摩耗、靴の滑りに関する研究

ゴムの摩擦摩耗機構の解明

墓石の転倒防止に関する研究

## がん研究所

ヒトB型肝炎ウイルスの複製機構に関する研究

## 学際科学実験センター

Coxiella burnetiiの遺伝子多型

## 共同研究センター

医療器具のEMC対策及びシールド特性の評価(実証研究)

## 自然計画応用研究センター

中和物の性状解析による鉱山廃水処理のリスク評価に関する研究

実時間動画画像認識プロセスVLSIの設計技術研究

画像圧縮伸張回路に関する研究

その他2件

## 北陸技術交流テクノフェア2004へ出展

平成16年10月14日(木)～15日(金)の2日間、福井県産業会館にて北陸地域最大の産学官共同の展示会として「北陸技術交流テクノフェア2004」が開催されました。

本学関係では、(有)金沢大学ティ・エル・オー、医学部生田宗博教授、工学部北川章夫助教授、同小西助手、同西川清教授、共同研究センターが出展しました。

## 金沢大学ベンチャービジネスプランコンテストの開催

平成16年10月26日(火)、金沢大学工学部秀峯会館にて、石川県、(財)石川県産業創出支援機構、金沢大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ、共同研究センターの主催により、「ベンチャービジネスの可能性に挑戦」をテーマとしたベンチャービジネスプランコンテストを開催しました。本コンテストは従来から大学発ベンチャーの機運を高めることを目的に行っているものです。

コンテストには自然科学研究科から16人もの応募者があり、発表時間が不足するという嬉しい主催者泣かせとなりました。発表者にはするどい質問が浴びせられ、近年にない盛り上がりとなりました。

## 起業家育成セミナーの開催

平成17年2月15日(火)、金沢大学自然科学本館1Fにて、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ、共同研究センターの主催により、(株)石川県ニュービジネス創造化協会会長森岡吉男氏を講師に迎え標記セミナーを開催しました。起業家への意欲を有する学生、大学院生や社会人の84名が参加しました。

セミナーでは上記森岡氏の「これからのベンチャービジネス経営戦略」に加え、廣瀬ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ長による「ビジネスのネタ探し」、瀬領共同研究センター教授による「大学発ベンチャーへの取り組み」と盛りだくさんの講演が行われ、ベンチャービジネス創業への心構えを学びました。